

# 中学総体 2017



第44回県中学総合体育大会は23、24の両日、県内各地で9競技を行った。ハンドボールの男子は沖縄東が初優勝し、女子は仲西が2年連続12回目の優勝を果たした。バスケットボールの女子は北合が8年ぶり6回目、男子はコザが3年ぶり11回目の栄冠を手にした。女子北合と男子コザは県内開催の全国大会への代表権を獲得した。バレーボールの男子は佐良浜が10年ぶり9回目、女子の西原東は10年ぶり2回目の頂点に立った。バドミントン団体では男子の喜瀬武原が初優勝し、女子の糸満は3年ぶり6回目の優勝を飾った。卓球団体は女子の与那原が17年ぶり5回目、男子の平良が3連覇を果たした。

# 沖縄東(男子)、仲西(女子) V

## ハンドボール

(豊見城市体育館ほか)

【男子】

沖縄東	41	美風	25	神森	29	浦風	23	神森	29	浦風	23
仲西	25	東風	20	仲西	17	東風	23	仲西	17	東風	23
浦風	29	神森	29	浦風	23	神森	29	浦風	23	神森	29
神森	29	浦風	23	神森	29	浦風	23	神森	29	浦風	23

## 後半、一気に大逆転 沖縄東

「(後半の)残り10分まで追い付く」。王者神森を追ってほぼダブルスコアの8-14で折り返した後半。焦らず諦めなかった沖縄東の反撃は始まった。

「動きが一步遅れがちだった」と前半で決め切れなかったエース松堂聖也が復調、チームは息を吹き返した。神森が三得点する間に一挙10得点で試合をひっくり返す。顔面をボールを阻止した後半で交代したGK上江田聖夏と、代わった中村譲の2枚看板も好セーブを連続。大逆転での中学総体初の栄冠だった。

左45度の松堂は、前半の遅れをハーフタイムで立て直した。神里桂吾監督の「今までの練習を出せば通る」という言葉に奮起し、身長180センチの高い打点を生かし得意の左から何度も打ち込んだ。アシスト役としても加点に貢献した。「心理的な駆け引きがうまい」と神里監督が太鼓判を押す中村は、後半の大事な場面でも1対1や守備との連携、チームやベンチがひやりとする場面をスーパースーブで沸かせ、神森の勢いをそいだ。

左ひじ脱ぎや骨折で出場が絶望視されていた主将の隈悠大は「やはり出たい」と出場してチームをまとめた。九州大会を制し、沖縄開催の全国大会も「優勝したい」と出だしの弱さを克服し、頂点の夢を追う。(石井恭子)

チーム一丸でライバル破る 女子仲西 12度目 V

○：春の九州中学選抜を制し、「最大のライバル」神森以外に負けるわけにはいかない(長嶺重信監督)と一丸で勝ち上がった女子仲西が、その神森を

破り、2年連続12回目の優勝を飾った。展開により自在に変えた守備陣形で攻撃を阻み、個々が果敢に攻め込み相手の堅守を崩した。主将の上原悠が5得点、糸満柚歩と砂川美穂が4得点と「センタースリー」で攻撃をけん引した。序盤は様子見と攻撃ミスでロースコアの展開となったが、真ん中から神森の堅守を徐々に崩した。

守備は前比嘉心、永田優希菜、松田華音、GK山里

日奈子の縦のラインでしっかり守った。ミドルシュートを連続した神森・田場に

後半7得点を許した点は九州での課題だ。「ずっと目標だった」(上原)という九州大会の切符を手に、チームは連覇へ挑む。



男子決勝 神森-沖縄東 左サイドからシュートを放つ沖縄東の松堂聖也(24日、豊見城市民体育館(石井恭子撮影))



男子優勝の沖縄東



女子決勝 仲西-神森 中央突破でゴールを襲う仲西の砂川美穂



女子優勝の仲西